

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターしいのみ学園		
○保護者評価実施期間	2026年2月6日 ～ 2026年3月24日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35 (児童2名は双生児)	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	2026年3月2日 ～ 2026年3月16日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 18
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもたちの発達支援を目指す理念、「すべてはこどものために」を具体化する支援内容や方法を工夫していく取り組みが挙げられる。特に、障がい克服ではなく、その子の持っているよさを大切にしながら、こども同士のつながりを重視し、自己並び他者を認めながら成長していくことを大切にしている。	○集団でも活動を基本として日々の設定保育や行事等を行っている。クラス単位の集団での活動と学園全体での活動を効果的に配置した支援プログラムを設定している。また、こどもたち同士が互いに相手の頑張りや困り感等を認め合っていくように活動を設定し、モデル提示や動作化、言語指示等の具体的支援を行っている。	年間スケジュールを念頭において計画的にゆとりを持ってこどもたちに関わることができるように留意する。
2			
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○職員間での情報共有や基本的な支援のあり方等に十分な共通認識が得られていないことが挙げられる。	○3年以内の保育士等が多い職場であり、経験の長い職員との互いの考え方や価値観等の共有が十分でないためと考えられ、双方の意見を少しでも伝えやすくかつ受け止めやすくするための雰囲気作りや会議・協議の場を設定するように努めている。	○園内研修や全体ミーティング等を始めとする園内での職員協議の場を活性化する。長時間の会議にならないように内容を精選し自由な発言を許容できる風土を作るために必要な事項のみ助言を行うような方法をとる。
2			
3			